

朝宮地域における有機茶栽培の研究組織設立に向けて

対象者 朝宮地域で有機茶栽培を志向する生産者

【普及活動のねらい】

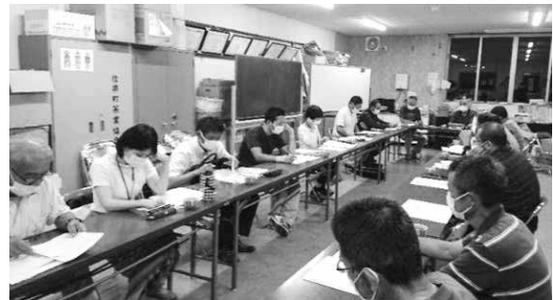
近年、朝宮地域では、海外輸出を含めた有機栽培茶の需要拡大を受けて有機栽培茶生産を志向する農家が増加(令和2年現在 12戸 10ha)しています。しかし、販売先が異なるうえ、栽培技術もそれぞれ独自に取り組んでおり、朝宮地域全体で有機農業に関する情報が十分共有できていないことが課題となっていました。

そこで、有機栽培を志向する茶農家12戸を中心に、信楽町茶業協会(以下「協会」という)や関係機関とも連携して研究組織を設立し、有機栽培技術や有機JAS認証に関する情報を交換し、今後の有機茶づくりのあり方について検討を深めるとともに面積拡大を図っていくことをねらいとして、課題に取り組みました。

【普及活動の内容】

まず最初に協会、関係機関としっかり連携したうえで、有機栽培志向農家の意向を個別に聞き取り、研究組織設立に向けた検討会の開催を支援しました。

その後、検討会で出た意見を踏まえ、有機農業をめぐる世界情勢等に関する勉強会として、6次産業化プランナーによる講演会が開催しました。



研究会設立に向けた検討会の様子

さらに、有機JAS認証取得希望者4名参加による認証取得に向けた相談会、共同出荷の可能性を模索するための求評会、栽培技術向上を目指した現地技術検討会などの実施を支援しました。こうした活動を通じて、朝宮地域での有機茶づくりのあり方への検討を深めました。

【普及活動の成果】

研究組織設立に向けた検討会では、「栽培技術の向上や販路開拓等を図り、朝宮の産地としての有機栽培茶を今後どのようにしていくのかを、今すぐみんなで考える必要がある」「新型コロナウイルス感染症等の影響により茶の相場が大幅に下がっており、有機栽培茶を活かして産地のPRにつなげたい」等の意見が多く出されました。その後、規約が承認され、「朝宮茶有機栽培研究会」が設立されました。



有機JAS認証取得相談会の様子

また、現時点で12戸の有機茶をブレンドして、PR用の新商品が作れないか等、これからの有機茶づくりのあり方に関するアイデアも出されています。

当課は今後も引き続き、研究会の取り組みを支援していきます。